

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ペガサスベビー保育園

横浜市港北区新横浜 1-19-18 パルク新横浜 101

運営主体：社会福祉法人 山百合会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～15 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	16～23 ページ
利用者本人調査分析	24～25 ページ
事業者コメント	26 ページ

2009年3月18日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ペガサスベビー保育園（保育所）	
報告書作成日	2009年2月23日	評価に要した期間 7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 08年8月6日～08年10月31日</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、8月6日にほぼ全職員が評価機関から第三者評価について説明を受ける。</p> <p>常勤職員へは職員会議で、非常勤職員には時間をとって趣旨説明・項目ごとの説明を行い、個々に記入した。また、短時間勤務者には個々に説明をした。</p> <p>常勤職員の会議で、全員の自己評価をもとに1項目ずつ確認しながら1つにまとめた。さらに、結果を非常勤職員にも配布して、意見をもらい、再度訂正・確認をした。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 08年10月6日～08年10月15日</p>	<p>全園児の保護者（20家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 08年11月21日 第2日 08年11月25日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：保育観察および書類調査。 昼食：昼食の状況を観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。 その後保育観察および書類調査。 昼食：昼食の状況を観察。 午後：各クラスリーダー保育士2名、フリー保育士1名、アルバイト1名、栄養士1名、主任に個別に面接調査。 その後、理事長・理事・園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 08年11月21日 第2日 08年11月25日</p>	<p>観察調査は、調査員が保育士室で実施するほか、園外での活動も観察。</p> <p>昼食時はそばから観察。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【ペガサスベビー保育園】

【施設の概要】

ペガサスベビー保育園は、社会福祉法人山百合会（本部：横浜市緑区）により、2000年（平成12年）11月に、横浜市としては初めての小規模認可園として開設されました。0歳児、1歳児のみを対象に定員は20名で、平日・土曜日とも7時から20時まで開所しています。「明るい笑顔でのびのびと」を園目標として掲げ、その内容を「子ども達の笑顔」「子ども達の未来のために」と位置づけ、日々の保育に取り組んでいます。法人は、1978年（昭和53年）3月に設立され、現在当園を含めて6園（横浜市緑区、港北区）を運営しています。無認可保育所の時代を含めると、40年以上の保育の歴史があります。

当園は、JR・市営地下鉄「新横浜」駅から徒歩7分、オフィス街の一角にあり、付近にはマンションも多く建っています。区画整理された道路、整備された公園に囲まれ、環境にも恵まれています。園舎は、10階建てマンションの1階のワンフロアを使用しています。園庭は備えていませんが、屋上には花壇のある展望の開けた広い庭園があります。保育室は東南に面して明るい造りになっています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で育まれています

子どもたちは、保育士たちに温かく見守られながら、のんびりゆったり園生活を送っています。

保育室では、ブロックを高く積み上げる・つなげる、パズルボックスで遊ぶ、ミニカーを走らせる、絵本を見るなど、好きな遊びをしながら過ごしています。大好きな絵本を保育士に読んでもらっている子どももいます。また、室内をよちよち走り回っている子どももいます。時にはおもちゃの引っ張り合いもありますが、保育士の静かな語りかけで納得し、それぞれの遊びに入っています。

散歩には、保育士に手をつないでもらったり、大型のバギー車に乗ったりし、楽しそうに出かけます。沿道では近所の人々とあいさつを交わしています。公園では、みんな思い思いの遊びに夢中です。ハトの群れを追いかけたり、落ち葉の上を歩き、落ち葉を拾い両手で高く持ちあげてまき散らし、「きれいきれい」と見つめたりしています。

お昼になると、もりもりと食べています。みんな行儀よくいすに座って、保育士に励ましの言葉をかけられ、助けられてうれしそうです。園は食事のあり方を大切にしています。毎日の食事から喜びを感じられるようにと、栄養士と調理師は取り組んでいます。プランターでのジャガイモ、プチトマト、イチゴ、ブドウなどの野菜・果物の栽培も、子どもたちに食への関心と興味を促しています。

散歩の日の午睡は、みんな熟睡です。大の字になったり、思い思いの寝姿です。保育士たちに見守られながら安心して過ごす子どもたちの寝姿が見られます。

ベビー保育園では、0歳児、1歳児といえどもみんなが主役です。1歳児はお兄さんです。運動会では、その立派な姿をお父さんお母さんに見てもらっています。

園は、園長を中心に職員がひとつになって乳児保育園作りに努めています。ワンフロアの園舎内は、職員間のコミュニケーションが常に行われる状況にあります。子どもたちの行動を見守る保育士を、園長・主任はじめ園全体で支えています。

保育士たちは、小さな園のメリットを活かし、家庭的な雰囲気作りに努めながら、子どもたちがゆったりとした気持ちでのびのびと園生活を送れるように見守っています。例えば、機械音である音楽テープを流さず、保育士の歌に合わせてリズムやわらべ歌を楽しむようにしています。

園目標の内容にある“保育園を昼間のおうち（＝生活の場）と位置づけ、子どもたちが安心して「自分を出せる心地よさ」を保障する保育”に向けてまい進している、とうかがえます。

2、保護者との密なコミュニケーションにより、信頼関係が築かれています

園は保護者との交流や保育方針の共通理解に努めています。

園だより4月号には、園長はじめ職員全員の顔写真と抱負を紹介し、園と保護者間のコミュニケーションのスタートとしています。毎月の園だよりのほかに、0歳児、1歳児ごとにクラスだよりを発行し子どもたちの様子を伝えています。さらに給食だより、保健だよりで、食事に関するニュースを伝え、健康へのアドバイスを行っています。これらの“おたより”にはイラストが多く使われていて、保護者の方々に関心を持って見ていただきたい、との職員の思いが感じられます。

園だより、クラスだよりでは、時機をとらえた保護者アンケート(おたよりへの投稿)を行っています。そこには、保護者の方々の朝の登園準備の慌ただしい様子や、七夕の短冊へ託すわが子への思いや願いが掲載されていて、保護者同士の交流の場にもなっています。

保護者との個別の情報交換は連絡帳で行っています。小さな園舎ですので、朝夕の送迎時には、入口付近で連絡帳を受け渡しながらの保護者との直接的なコミュニケーションが、自然な形で行われています。保育士はその日の子どもの様子を直接伝えるように努めています。また、そこにはワンフロアを活かした園長、主任の密なサポート体制もできています。

今回の第三者評価に伴う利用者家族アンケートでは、「園と保護者との連携・交流について」の設問についても、高い満足度を示しています。自由記入欄への記述には「見守る態度に信頼がおける」「家庭的な雰囲気」「いろいろと園の様子を教えてくれる」など、園に対する信頼感が見られます。

3、育児講座やランチ交流などを通して、地域の子育て支援に大きく貢献しています

園では、一時保育、ランチ交流、育児講座、育児相談などに精力的に取り組み、地域の子育て支援において力強い役割を担っています。

年6回開催の育児講座では、離乳食、絵本、救急法について、また、お話し会などをテーマとしています。毎回、定員いっぱいの多くの保護者が参加しています。特に、救急法は大変な関心を持たれ、毎年開催のテーマとなっています。またランチ交流は、親子が食事をしながら、離乳食や幼児食を体験し、幼児食への移り方についても学べるということで、お母さん方に大変喜ばれています。運動会やおもちつきには、近隣の親子を招待しています。

子育て支援事業に取り組むにあたっては、参加者の声などを通して得られた子育て支援ニーズを踏まえて取り組んでいます。実施にあたっては、具体的で綿密な企画書を作成して、小規模園としての弱みをチームワークでカバーしています。

比較的、保育園などの子育て支援施設の少ない新横浜駅前の地域において、当園の活動は地域に大きく貢献していると考えられます。法人設立の原点である経営理念「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献(支援)する」が実践されています。

さらに期待される点

引き続き実践的な研修による知識・スキルの一層の向上を

園は、職員の人材育成・資質向上には大変力を入れていきます。職員は、非常勤職員も含めて外部の研修会・研究会に参加し、また系列6園で行う研修会にも積極的に参画しています。研修の成果は報告書にまとめて報告・紹介して、お互いの資質向上に結び付けています。また、目標管理制度の中で、自己の目標に向かっての自己研鑽も行われています。

今後、乳児保育園としてさらなる取り組み、例えば、園の目標や保育計画の実施項目から、具体的取り組み事項を落とし込んで個人別の目標管理の中に盛り込む、研修会・研究会の効果を個別に評価して、次年度の計画に反映させるなど、引き続き、知識・スキルの一層の向上を図るための検討が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

【ペガサスベビー保育園】

1、人権の尊重

- ◇ 園目標として「明るい笑顔でのびのびと」を掲げ、園目標の内容を「“子ども達の笑顔”“子ども達の未来のために”を掲げ、保育園を昼間のおうち(=生活の場)と位置づけ、子ども達が安心して“自分を出せる心地よさ”を保障する保育を目指している」としており、これらの保育の理念や基本方針は、利用者本人(子どもたち)を尊重したものになっています。
- ◇ 守秘義務の遵守、個人情報の取り扱いについては明文化して、職員に周知を図っています。実習生に対しても資料を渡して、オリエンテーション時に説明しています。
- ◇ 職員は、虐待の定義や対応の仕方などについて、マニュアルを自己学習するほか、児童相談所その他の機関で開催の外部研修で学び、理解を深めています。虐待が明白になった場合には、港北区福祉保健センターと連携することになっています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育の理念や基本方針は、子どもの自主性・主体性を育むものになっています。
- ◇ 保育士は、子どもと向き合って言葉をかけること、また、さまざまな場面で無理強いすることなく、子どもの立場に立って子どもの意思をくみ取って保育すること、などを心がけています。
- ◇ 遊びにおいては、子どもたちは自由に絵本を取り出してきたり、ミニカーを走らせたり、パズルボックスに集中したり、落ち着いて思い思いに遊んでいます。
- ◇ 食事は、自分で食べたい気持ちを持つことを大切に、子どもが食べたがらないものは、園でも勧めますが、家庭でまず保護者がおいしく食べてみせるように、ということを話しています。トイレトレーニングに関して、まず「トイレが楽しい」と子どもが思えることを大切にしています。
- ◇ 地域で行っている行事には、できるだけ子どもも参加するようにしています。最近の事例では、近くの公園で開催のシャボン玉遊びに参加しました。また、散歩の際には、近隣の人々、掃除のおばさん、駐車場やビルの管理人など、地域の人たちとあいさつを交わしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保育の基本方針に基づき、就労状況などの保護者の実状、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成しています。
- ◇ 指導計画は、職員会議、クラス会議において、子どもの発達や状況に応じて、年齢ごとに作成しています。また、指導計画の評価・見直しにあたっては、保護者との日常的な意見交換による情報も反映させています。
- ◇ 保護者が第三者委員に直接苦情を申し立てることができるように、「園のしおり」で保護者へ伝えるとともに、入り口に掲示しています。また、入り口には「ご意見箱」を設置して、保護者から意見や要望を出しやすいようにしています。要望や苦情等を受けて迅速に対応できるように、苦情解決マニュアルを整備しています。また、保護者からの要望や苦情は、職員会議などでその都度話し合いを持ち、迅速に対応しています。
- ◇ 事故や災害に備えて緊急連絡体制を確立していて、定期的な非難訓練も行っています。
- ◇ 健康管理・衛生管理・安全管理などの各種マニュアルは、園の実情に合わせて職員で作成しており、全員が周知しています。マニュアルは年に1回、職員で見直すことにしています。
- ◇ 保護者とは、朝夕の送迎時に、入口付近で連絡帳を受け渡ししながらの直接的なコミュニケーションが、自然な形で行われています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域の子育て支援ニーズに応じて、年6回開催の育児講座、毎週水曜日に行うランチ交流のほかに、育児相談、一時保育など、施設の専門性を活かしたサービスを提供しています。
- ◇ 育児相談は常時受け付け、対応しています。相談内容に応じて、区サービス課や市保育運営課および区社会福祉協議会などの関係諸機関・団体との連携ができる体制になっています。
- ◇ 園の行事である運動会や園内で行うおもちつきには、地域の住民（親子）を招待し、夏季にはマンションの子どもたちに屋上の幼児プールを開放するなど、子育て支援サービスの提供に努めるとともに、保育園に対する理解促進のための取り組みを行っています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 保育園の理念や基本方針は明文化され、全職員に配布し、周知が図られています。系列6園で行う園内研修報告会においても、理事長より職員の理解を促すための説明を行っています。
- ◇ 園の重要な意思決定にあたっては、保護者懇談会などを通して、保護者と意見交換を行っています。
- ◇ 次代の組織運営に備え、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みの検討、また、計画的な後継者育成に努めています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員（非常勤職員含む）の研修体制が確立していて、園内研修、および園外の研修会・研究大会等へ積極的に参加しています。また、研修の成果を職場で活かすために、研修の結果を研修報告書にとりまとめています。職員は自由に閲覧し、自己研鑽に努めています。
- ◇ 職員会議、クラス会議、ケース会議などにおける保育サービスについての議論を通じて、個々の職員はスキルの問題としてとらえ、自己評価を行い、技術の向上に取り組んでいます。
- ◇ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。
- ◇ 実習生の受け入れは、マニュアルに基づき行っています。実習生には、事前にオリエンテーションを行い、また、実習目的に応じて効果的な実習が行われるように、依頼校から送付される計画書に沿って、プログラム等を工夫しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある



評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園の目標として「明るい笑顔でのびのびと」を掲げ、園の目標の内容を「子ども達の笑顔」「子ども達の未来のために」を掲げ、保育園を昼間のおうち（＝生活の場）と位置づけ、子ども達が安心して“自分を出せる心地よさ”を保障する保育を目指している」としており、これらは、利用者本人（子どもたち）を尊重したものになっています。園目標や園目標の内容は明文化し、全職員に配布して周知しています。 保育計画は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成されています。 保育計画に基づき、年齢ごとの指導計画を作成しています。作成にあたっては、日常の保育を通して、低年齢のため理解できないと決めつけずに、子どもと向き合って言葉をかけること、子どもの立場に立つように心がけることなどを通して、子どもの意見や意思をくみ取り、指導計画に反映させています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前にはオリエンテーションを行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。 入園までの生育暦や家庭での状況を保護者から提出してもらい、日々の保育に活かしています。 新入園児の受け入れ時には、短縮保育（ならし保育）について説明しています。また新入園児に対しては、個別に主担当保育士を決めるなどの配慮を行っています。 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しています。また、指導計画の評価・改訂にあたっては、保護者との日常的な意見交換による情報も反映しています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内は、清潔さ・採光・換気・照明等、子どもが快適に過ごせるような環境となるように配慮しています。 ・ 保育園の屋内・外とも、常に清掃を行い清潔に保っています。 ・ 保育室は床暖房、冷房装置、加湿器などを備え、適正な温度・湿度を維持しています。また、保育室の窓や入り口は東南面に開けていて、広く陽光が取り入れられるようになっています。 ・ 沐浴設備が設置されており、おむつかぶれのときやあせもがひどいときなどに、常に使用できるようになっています。 ・ 0歳児クラス、1歳児クラスともに、保育マットを活用したコーナーを作っています。 ・ 午睡のスペースを考慮して、食事テーブルを配置するといったように、食べる・寝るなどの機能別空間を確保しています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しています。また、子どもの発達状況に合わせて、柔軟に変更・見直しを行っています。 ・ 子ども一人ひとりの発達を記録し、整備・保管しています。 ・ 子どもにかかわる個別の記録内容は、全職員が共有できる仕組みになっています。なお、これらの子どもにかかわる個別の書類は、鍵の付いたロッカーに保管しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報は職員間で共有しています。 ・ 外部研修、園内研修などを通して、配慮を要する子どもについての最新情報を学習しています。さらに、職員会議等を通して職員間で共有し、日々の保育に活かしています。 ・ 障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。障がい児保育については全職員で学習し話し合える体制をつくっています。また、法人として障がい児部会を設けて、広く勉強会・研究会を持っています。 ・ アレルギー疾患のある子どもについては、保護者との密接な連携をとって、除去食・代替食の提供などを行っています。 ・ 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対しては、遊びや行動の面において配慮しています。また、保護者との意思疎通においても適切に対応するよう努めています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすいように、「園のしおり」により、第三者委員の氏名・連絡先を伝え、玄関に意見箱を設置しています。また、保護者懇談会、個別面談時の事前アンケート等を通して、要望や苦情を聞ける仕組みとしています。 ・ 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できるように、苦情解決マニュアルを整備しています。また、保護者からの要望や苦情は、職員会議などでその都度話し合いを持ち、迅速に対応しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃは、子どもが自由に取り出せる高さの棚に置いてあります。絵本も、絵本ラックから子どもが出し入れできます。手作りのおもちゃや木製のおもちゃが多く、子どもの成長や季節に合わせて、棚に置くおもちゃを取り換えています。例えば、手先を使うことに興味を持つころには、はめたりはずしたりするおもちゃを置いています。 ・ 部屋が広いので、たたみや保育マットを使用して、それぞれに違う遊びを楽しめるコーナーを作っています。子どもたちは自由に絵本を取り出してきたり、ミニカーを走らせたり、パズルボックスに集中したり、落ち着いて、思い思いに遊んでいます。 ・ 保育士は食育計画に基づいてプランターで季節の植物を栽培し、保育活動に盛り込んでいます。今年はイチゴ、ミニトマト、スイカ、じゃがいも、さつまいも、落花生、そら豆、ぶどうなどを作りました。子どもたちは土に触れたり、日々水やりをしたり、収穫を楽しんだりしています。そして、イチゴやミニトマトなどは直接もいで食べました。スイカ割りをやったり、芋ほりもやりました。そら豆やとうもろこしの皮むきもやりました。マンションに住む家庭が多く、始めは土に触れることも嫌がった子どもたちでしたが、芋ほりなどの経験で、少しずつ慣れ、1歳児は土いじりを楽しんでいます。 ・ 子どもたちは、気持ちの良いときには自然にリズムカルに声を出したり、体を動かしたりしています。 ・ 0、1歳児なので、特にけんかというまでにはいきませんが、おもちゃの取り合いがあると、保育士は別のおもちゃを持ってくるなど、不要なトラブルが起きないように配慮しています。また、「これが欲しかったんだね」などと子どもの気持ちを代弁します。 ・ 園庭はありませんが、近くに公園がいくつもあり、散歩マップを作って積極的に園外に出かけ、四季の自然に触れています。公園では思い思いに歩いたり走ったり、どんぐりを探したり、保育士と一緒に疲れるまで十分に遊んでいます。 ・ 0歳児の部屋はできるだけ広く使えるようにして、ハイハイなどが自由にできるようにしています。成長段階に従って、滑り台やトンネル、マットなども設定し、十分に体を動かせるようにしています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢ごとに年間食育計画があります。 ・ 離乳食については、「離乳食の進め方個人表」を作り、家庭と連携して新しい食材すべてについてチェックしてもらい、細かく、慎重に進めています。 ・ 食事は手づかみを奨励し、こぼすことを気にせず、「自分で食べたい」という気持ちを大切にしています。嫌いなものも一口食べてみるように勧めはしますが、強制はしません。子どもが食べたがらないものは、家庭でまず保護者がおいしく食べてみせるように、ということを勧めています。子どもたちはよく食べ、残食はほとんどあ

りません。

- ・ 旬や地産の食材を大切にし、薄味で素材の味を引き出すようにしています。また、切り方や彩りで食欲を促すように工夫をしています。
- ・ 簡単なクッキング保育でも食への関心を引き出しています。夏にはヨーグルトと桃でジュース作り、十五夜にはお団子作りをしました。また、1、2歳児合同で焼き芋を持って公園に行き食べる「焼き芋給食」や、季節の行事食でも、子どもたちは変化のある給食を楽しんでいます。
- ・ 保育士たちは、子どもたちが楽しい雰囲気の中で食事が進むように声をかけています。また、行事食のときには、普段と違って大皿にカラフルに盛り付けたものを栄養士が運んで来て、子どもたちの目の前で盛り付けをしています。「七夕」の行事食は、星型に盛られたチャーハン、星型ににんじん入りスープ、ブロッコリーと星型の穴が開いたにんじん、子どもたちに人気のから揚げ、そしてオレンジとフルーツポンチと、子どもたちが大喜びの食卓でした。
- ・ 食材の安全性については、法人の給食部会で常に話し合い、低農薬のものを心がけています。だしやカレールーなども手作りをし、おいしさとともに安全性に配慮しています。
- ・ 栄養士や調理師は、配膳が終わってから実際の子どもの食事の様子を見に行くようにしています。行事食のときには共に過ごす時間を作っています。
- ・ 給食日よりでは、人気メニューや、園で子どもたちが作ったお月見団子などのレシピを、定期的に紹介しています。また、簡単な朝食作りのアイデアや、季節の食事作りのポイントなども提示しています。子どもたちがプランター栽培のじゃがいもを収穫する様子や、そら豆の皮むきをした様子なども伝え、行事食の紹介もし、保護者が園の食事に関心を持つように工夫しています。
- ・ さらに、保護者に園の食事に関心を持ってもらうには、何よりも試食をしてもらうことだ、という考えで、懇談会では食事やおやつを試食会をし、保護者に喜ばれています。その際、栄養士も参加して話し合いや相談ができるようにしています。また、保育参加でも食事を一緒にしてもらっています。
- ・ 安心して心地よい眠りにつけるように、カーテンを引いたり、布団について0歳児は硬綿、1歳児は柔綿を使うようにしたり、また0歳児は入眠時にマッサージをしたりしています。また、乳幼児突然死症候群への対策として、1歳2ヶ月ぐらいまでは、ベビーセンス（乳児用の呼吸モニター）を使用して5分ごとの睡眠表をつけることにより、呼吸の確認をしています。
- ・ トイレトレーニングに関しては、まず「トイレが楽しい」と子どもが思えることを大切にしています。懇談会では、あせらずにゆっくり進めていくように保護者と話し合っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理マニュアルがあります。子どもの体調が変化した場合は、保護者に対して、連絡帳に書き、口頭でも詳細に伝え、降園後の対応についても保護者と話し合います。お迎えの前に連絡する必要がある場合は、マニュアルに従って連絡しています。
- ・ 歯磨きについては、0歳児クラスでは、歯も出てきて食後すぐには眠らないようになるころから、家庭から歯ブラシを持ってきてもらいます。1歳児クラスでは、自分でも磨こうとする子どももいて、保育士が仕上げをしています。年1回の歯科健診時に、歯科衛生士による歯磨き指導も受けています。
- ・ 健康診断の前には保護者に知らせて、質問事項があれば、ノートに書いておいてもらいます。健診後に結果と質問への答えを用紙に記入して、保護者に知らせています。
- ・ 入園時に配布する園のしおりに、感染症一覧や登園停止基準などを載せています。毎月発行される保健だよりでも、感染症について原因、症状、対処法、また登園許可証の要不要などについて、随時お知らせをしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルは年に1回職員で見直すことにしています。マニュアルは職員で作成したもので、現状に即して具体的で詳しく、全員が周知していません。
- ・ 毎日、掃除チェック表に基づいて消毒や清掃などを行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 安全管理マニュアルは、けが、事故などに対応するものを、送迎時、園舎内にいるとき、散歩時などについて、園の実情に即して職員で作成しています。園舎内外や遊具、備品についての安全点検表も作っています。
- ・ 子どもがけがをした場合、軽傷であっても必ず担任が保護者に説明し、その状況を記録しています。
- ・ 地震、火災、その他を想定して、発生場所や時間帯なども変えながら、月に1~2回防災訓練をしています。また年に2回、総合防災訓練を行い、広域避難場所への避難訓練も実施しています。訓練内容や所要時間、結果・講評その他を詳しく防災訓練簿に記録しています。
- ・ 不審者対策のため防犯カメラを設置しています。また、保護者や来園者が来るとモニターで確認してから、入口の施錠を解除しています。出入りの際は必ずその都度施錠しています。
- ・ 不審者対策として、日中はビルの管理人とも連携しています。管理人は交代制で日中は必ず1人が勤務していて、ビルの見回りも行っています。
- ・ また、送迎シートでお迎え予定者を確認し、変更のある場合は保護者から直接園に連絡してもらいます。保護者以外の方がお迎えに来る場合は、連絡帳に顔写真を貼ってもらっています。

- 3 人権の尊重





- ・ 一日の流れに沿ったデイリープログラムの中の「配慮事項」欄の随所に、「温かく見守る」「優しい語りかけ」といった配慮を記しています。実際に保育士は、威圧的な言葉遣いなどは一切なく、子どもたちに温かく対応しています。
- ・ 子どもが0歳、1歳と小さいので、保育士は常に目を離さないようにしていますが、子どもがおもちゃの棚からおもちゃを全部出して棚の中に入り、子ども自身は保育士の視線を感じないで遊ぶ場面は多くあります。
- ・ 個人情報の取り扱いについて、例えば写真撮影や卒園文集に住所を載せることなどは、保護者の了解を得ています。
- ・ 職員は、虐待の定義などについて、児童相談所その他の外部研修で学習しています。
- ・ 職員は保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方などはしませんが、保護者の方からそういった話し方などがあった場合は、全部を否定することはせず、親の気持ちも受け止めるようにしています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 入園時や懇談会、園だよりなどで、保護者に園の方針を理解してもらうようにしています。今回の第三者評価の家族アンケートでは9割近い保護者が「知っている」と答え、その全員が園の方針に賛同しています。
- ・ 子どもの送迎時には保護者と1対1で対応して、子どもの様子を伝え合っています。特に朝は必ず連絡帳を見ながら、子どもの様子を確認し合っています。
- ・ 保護者個人面談は年に1回全保護者と行っていますが、その他にも必要に応じて随時行っています。
- ・ 日々の保護者からの相談の場合、ほかの人がいると気になるようなときは、保育室から全く離れた部屋で、必ず複数の職員で話を聞きます。
- ・ 毎月1回、園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりを発行して、園の生活を伝えるとともに、年齢に即した子育てのアドバイスもしています。特別な保育「焼き芋給食」の日などについては、園だよりで速報を出して、写真などを載せています。
- ・ 保護者懇談会は年に2回行います。懇談会の前にはアンケートにより保護者の意見や希望を聞いています。クラスのビデオも上映します。年に1回の保護者との茶話会は、0歳児クラス、1歳児クラス合同で、その際にも子どもたちの様子をビデオで鑑賞します。
- ・ 保育参加は年間を通じて受け入れています。
- ・ 保護者会はありませんが、保護者からの要望があれば、保護者の集会などのために保育室を開放するような用意があります。実際には12月のお楽しみ会の保護者の出し物の練習などに、園として協力し、保育室を提供しています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年6回開催の育児講座におけるアンケート、毎週水曜日のランチ交流会、および一時保育や育児相談などを通して、地域の子育て支援のニーズについて把握しています。 ・ また、地域の子育て支援に関して、港北区サービス課および港北区社会福祉協議会保育分科会などと情報交換を行っています。 ・ 地域の子育て支援ニーズに応じて、年6回開催の育児講座、毎週水曜日開催のランチ交流のほかに、育児相談、一時保育など、施設の専門性を活かした育児支援サービスを提供しています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園入り口の掲示板を使って育児講座、育児相談、ランチ交流会、園で提供する食事（除去食・行事食など）の写真などを紹介しています。また、区役所が配信する「ココめ～る」、新横浜町内会館における掲示板などにより、園の情報を提供しています。 ・ 常時、育児相談を受け付け、対応しています。 ・ 相談内容に応じて、横浜市のこども青少年局保育運営課や港北区サービス課および港北区社会福祉協議会などの関係諸機関・団体との連携ができる体制になっています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園の行事である運動会や園内で行うもちつきには、地域の子どもたちを招待する、夏季にマンションの子どもたちに屋上のプールを開放するなど、保育園に対する理解促進のための取り組みを行っています。 散歩の際には、近隣の人々などとあいさつを交わす、地域で開催の行事に参加するなどを通して、子どもと地域との交流を図り、子どもの生活の充実に努めています。 なお、町内会、ボランティアグループ等と協力して行事を行うことや、小中高等学校など学校教育との連携は、乳児保育園のため、感染症防止の観点などから判断して行っていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園のパンフレット、法人のホームページ、横浜市こども青少年局のホームページ等により、園の将来の利用者が関心のある事項について、地域や関係機関に随時、情報を提供しています。 利用希望者の問い合わせには、園のパンフレットやしおりを使用して説明しています。 利用希望者には、できるだけ園児が活動している様子を見てもらうように案内しています。また、おやつを提供するなど、園をよく知ってもらうように努めています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア受け入れのためのマニュアルを整備して、体制はできていますが、ワンフロアという施設上の制約や、乳児のみの保育園で感染症やケガの防止の観点より、現在はボランティアの受け入れは行っていません。 実習生受け入れのためのマニュアルに基づき、実習生を受け入れています。実習生には、事前にオリエンテーションを行い、スムーズな実習が行われるように配慮しています。また、実習目的に応じた効果的な実習が行われるように、実習依頼校から送付される計画書に沿って、プログラム等を工夫しています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営に十分な人材構成であるかをチェックして、職員の補充を行うとともに、保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っています。 ・ 職員・非常勤職員の研修体制が確立していて、園内研修、および園外の研修会・研究会等へ積極的に参加しています。また、研修の成果を職場で活かすために、研修の結果を研修報告書にとりまとめ、職員は自由に見られるようにしています。 ・ 非常勤職員にも業務マニュアルなどの文書を配布するとともに、外部研修への参加をすすめることや、園内研修への参画など、常勤職員と同様の資質向上へ向けた取り組みを行っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議、クラス会議、ケース会議などにおける保育サービスについての議論を通して、個々の職員はスキルの問題としてとらえ、自己評価を行い、技術の向上に取り組んでいます。 ・ 元保育園長に随時、保育の実態を観察してもらうなど、外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがあります。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。 ・ 職員会議、クラス会議等を通して、また普段の意見交換の中から、職員からの業務改善提案などを募り、日々の業務に活かしています。 ・ 園長は、個人面談を通して、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等を明文化し、職員に周知しています。 ・ ゴミの分別を行う、牛乳パックにより遊具を製作するなど、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。 ・ また、節電に努める、水道の蛇口は完全に閉めるなどの省エネルギーに取り組んでいます。 ・ 環境に配慮した活動を実践していますが、環境への考え方、取り組みは明文化していません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や基本方針は明文化され、全職員に配布し周知を図っています。また、系列6園で行う園内研修報告会において、理事長より職員の理解を促すための説明を行っています。 ・ 園長は、重要な意思決定にあたっては、保護者懇談会などを通して、保護者と意見交換を行っています。 ・ 主任は、報告書等の閲覧、各種会議への参画、職員勤務表の作成などを通して、職員の業務状況を把握して、個々の職員の能力や経験にあわせた的確な助言や指導を行っています。 ・ また主任は、職員との日々の話し合いを通して、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように、勤務のローテーションを配慮するなど、いつでも支援できる体制をとっています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は、系列6園の園長会、港北区や港北区社会福祉協議会の園長会、私立保育園の園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。 ・ 園長は、運営面での重要な改善課題については、職員に周知し、園全体の取り組みとしています。 ・ 法人として、保育園運営に関しての中長期的な計画や目標を策定しています。 ・ また、次代の組織運営に備えて、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みを検討し、計画的な後継者育成に努めています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

【ペガサスベビー保育園】

- 1、実施期間 2008年10月6日～10月15日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 75%（20枚配付、15枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...8人、1歳児クラス...7人、
ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足度」とは、「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合わせた数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

87%の保護者が、保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の全員が、「賛同できる」と答えています。自由記入欄に、“園は子どもにとって「昼間のおうち」となるように目指しているが、その通りに子どもは家のようにくつろいでいる”という声がありました。

【問2】入園時の状況について

「園の目標や方針についての説明」「子どもの様子や生育歴を聞く対応」「一日の過ごし方についての説明」の各項目がどれも100%の満足度です。残りの「見学の受け入れ」「園からの情報提供」「費用きまりに関する説明」の各項目についても93%の満足度です。

【問3】年間の計画について

2つの項目「年間の保育や行事についての説明」「保護者の要望が活かされているか」とも、100%の満足度です。自由記入欄に“いろいろな予定などを年間計画としてだけでなく、その都度数回にわたって説明してくれ、報告もあるので大変満足している”というような声がありました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

遊びについては、「クラスの活動や遊び」「戸外遊びを十分しているか」「おもちゃや教材」「遊びを通しての友だちや保育者との関わり」「健康づくりへの取り組み」の5項目がどれも100%の満足度です。もう1つの「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」が87%の満足度でした。自由記入欄には、“手作りおもちゃが多く、安全で温かみがある”“子どもがいつもとてもうれしそう”“いろいろな遊びをしてもらっている”など、多数満足している声が寄せられています。

生活については、「給食の献立内容」「子どもが給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立への取り組み」「昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか」「子どもの体調への気配り」「保育中のケガに関する説明や対応」の6項目が100%の満足度です。自由記入欄には、“離乳食の進め方について細かく相談にのってもらえた”“試食をさせてもらったのがとてもよかった”“ケガをした後の配慮がとてもよく、信頼感につながった”など感謝の声が多くありました。一方、「おむつはずし」については53%の満足度にとどまっていますが、「その他」と答えた保護者が27%いて、自由記入欄には“まだやっていないのでわからない”という声が多くありました。

【問5】快適さや安全対策などについて

「感染症に関する情報提供」については100%、「施設設備」「落ち着いて過ごせる雰囲気」「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については93%の満足度でした。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「懇談会や個別面談」「園の様子や行事に関する情報提供」「園の行事の開催日や時間帯」「子どもに関する重要な情報の連絡体制」「保護者からの相談事への対応」の5項目はどれも100%の満足度です。「送り迎えの際の情報交換」は93%で、「お迎えの時間に対する柔軟な対応」は87%の満足度でした。

【問7】職員の対応について

「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」は100%、「子どもが大切にされているか」「話しやすい雰囲気、態度」「意見や要望への対応」は93%の満足度です。自由記入欄では、「職員全員でみている」「安心してあずけられる」「親身になって相談にのってくれる」「一人ひとりがとても大切にされている」など、多くの声が園との信頼関係を伝えています。「アレルギーや障害のある子どもへの対応」が73%の満足度にとどまっていますが、残りの27%の回答は「その他」なので、“自分が関係していないのでよく分からない”ということだと思われます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

100%の満足度です。そのうち「満足」が80%、「どちらかといえば満足」が20%です。

まとめ

- ◇ 問2以降の全38項目中、満足度100%が24項目、100%には達していないが90%以上が10項目と、大変高い満足度が示されています。また、総合的な評価で「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた「満足度」が100%ですが、その内訳は80%が「満足」であるということからも、保護者の満足度の高さがうかがえます。
- ◇ 自由記入欄には“満足している”という声がたくさん寄せられていますが、最も多いのは、“保育園がアットホームな雰囲気で、子どもがくつろいで楽しく過ごしている”という喜びです。
- ◇ その他“保育内容がしっかりしている”“子どもへの対応も親への対応もとてもいい”“いつでも相談できるという安心感”“子どもの様子がよくわかる”などの声からも、小型のベビー保育園の特徴を活かして、職員が保護者一人ひとりとしっかり対応し、信頼を得ている様子がうかがえます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

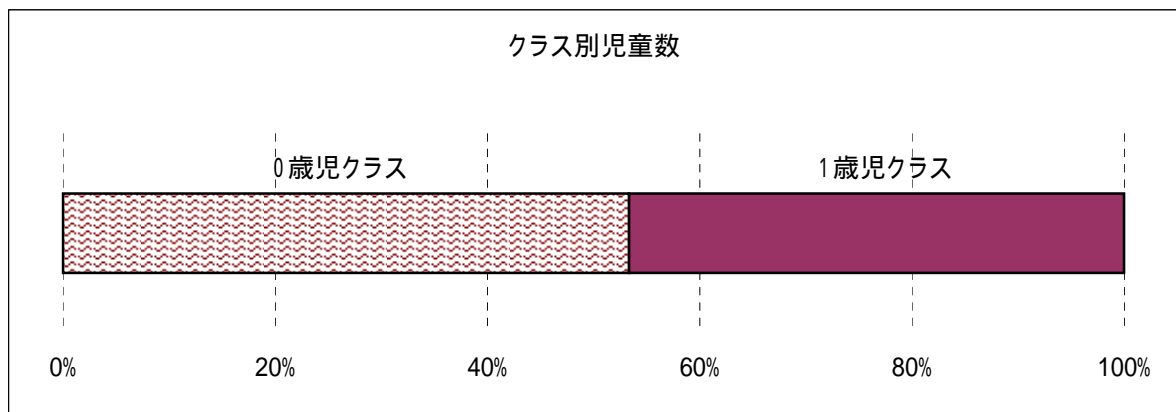
実施期間： 2008年 10月6日～10月15日

回収率： 75.0% （回収15枚 / 配布20枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
15	8	7	0	0	0	0	0

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて記入



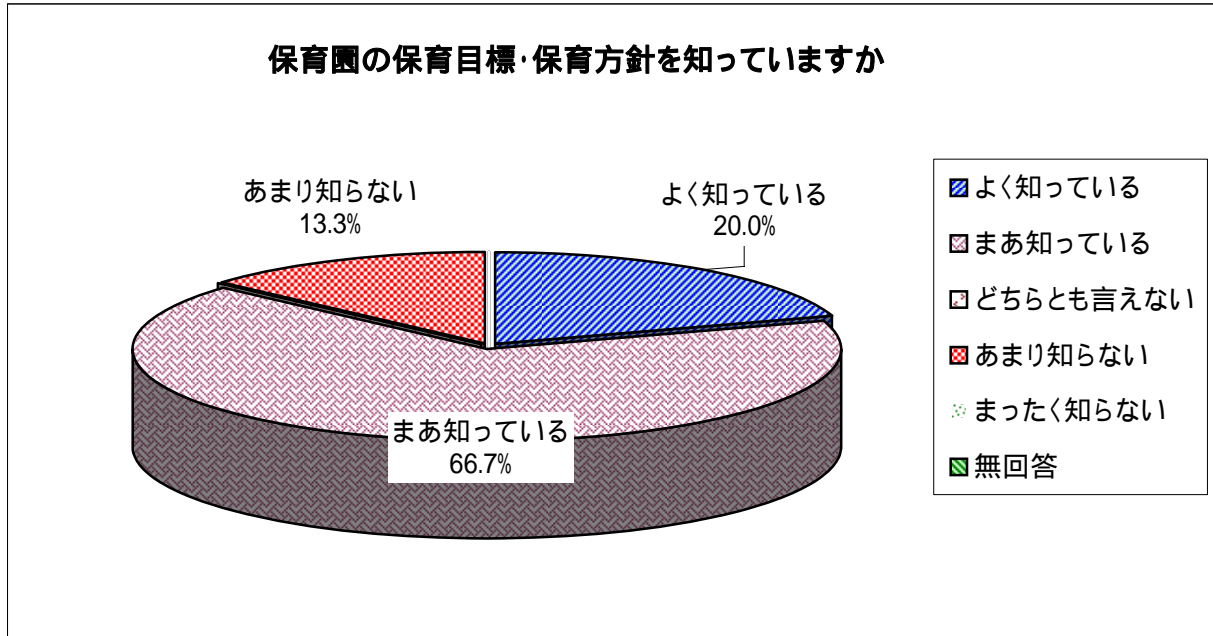
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	20.0	66.7	0.0	13.3	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

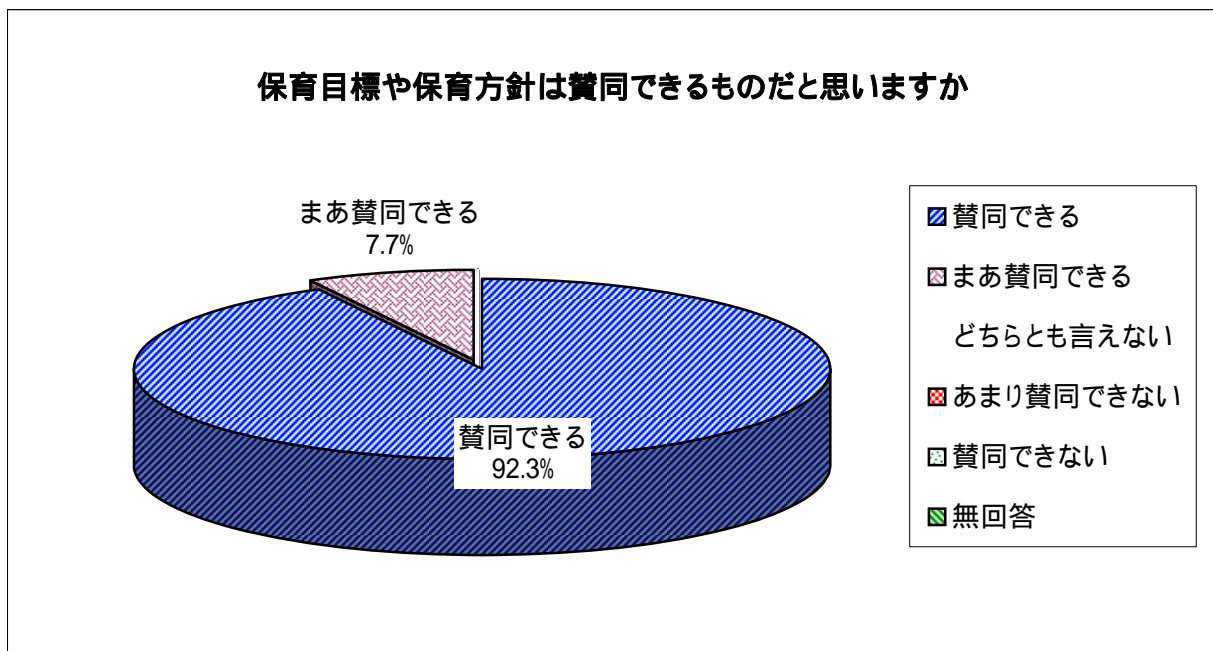


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

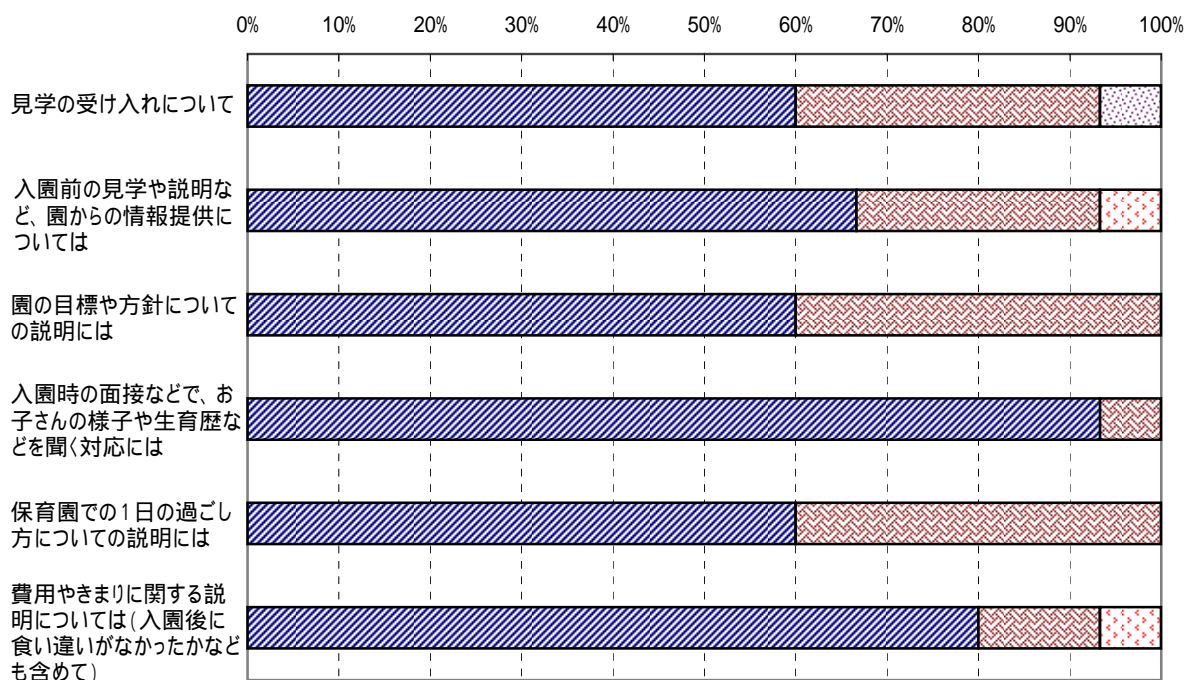
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	60.0	33.3	0.0	0.0	6.7	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	80.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



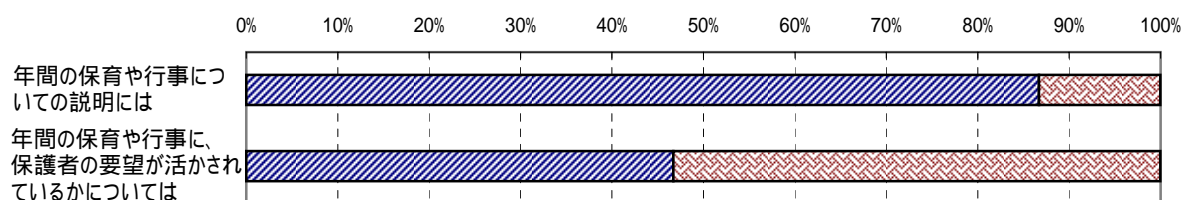
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

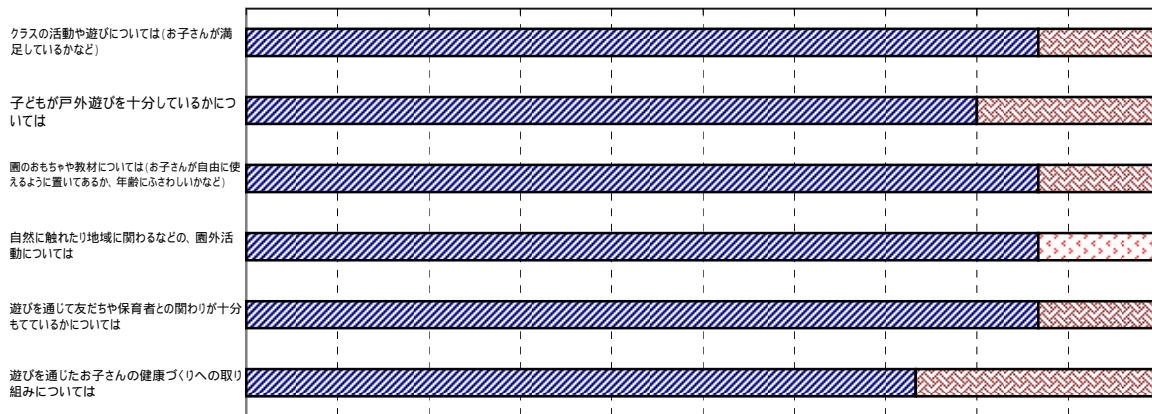
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	86.7	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



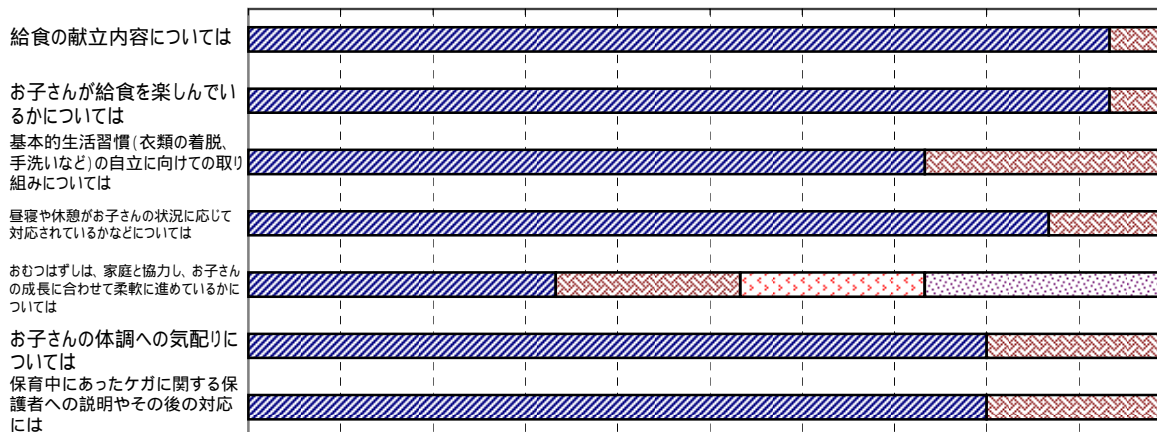
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	33.3	20.0	20.0	0.0	26.7	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



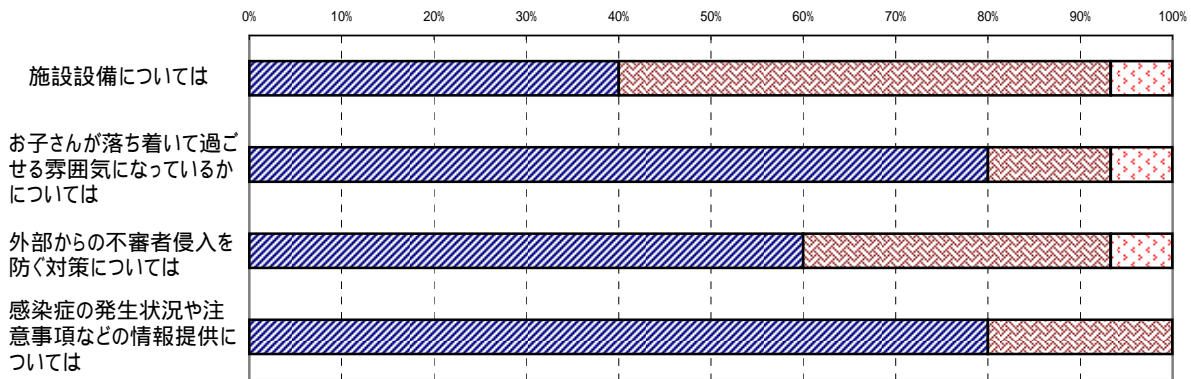
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	40.0	53.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	80.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	60.0	33.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



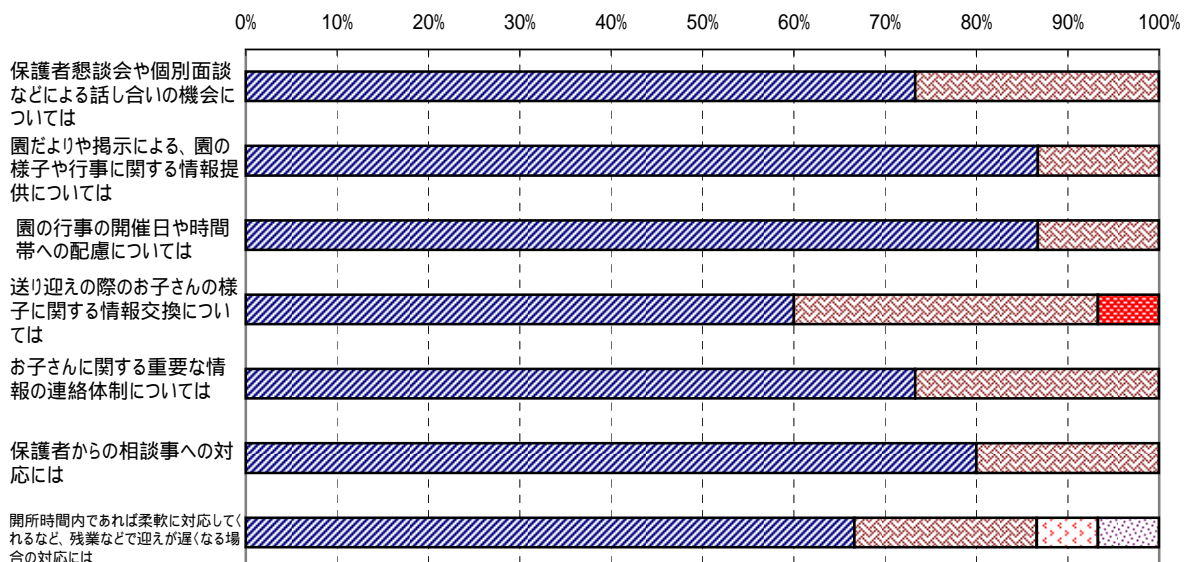
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	60.0	33.3	0.0	6.7	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7	20.0	6.7	0.0	6.7	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

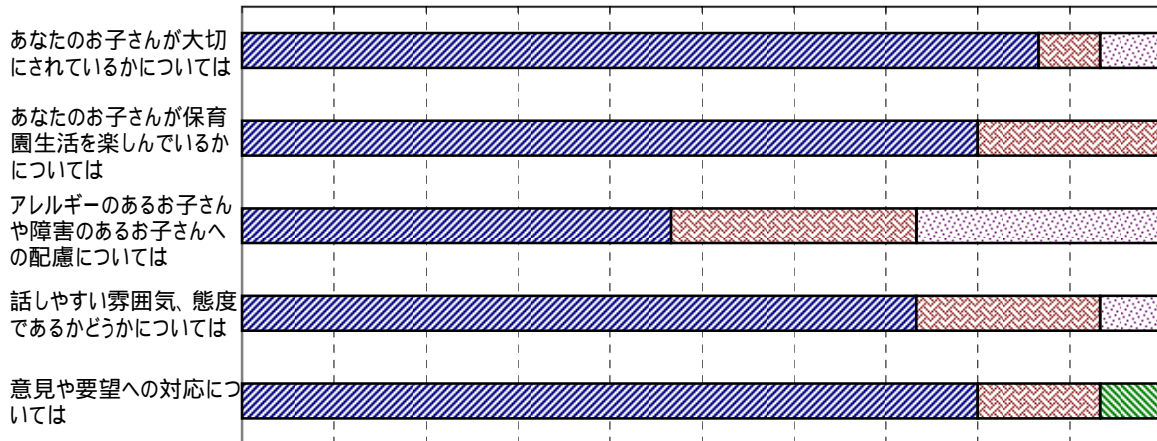
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	86.7	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	46.7	26.7	0.0	0.0	26.7	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	73.3	20.0	0.0	0.0	6.7	0.0	100
意見や要望への対応については	80.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

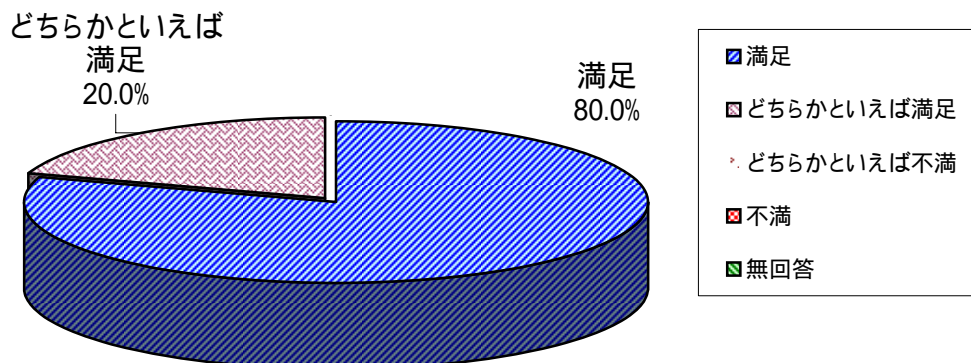


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

【ペガサスベビー保育園】

観察調査 11月21日（金）9：00～12：00 15：00～15：20 17：10～17：45

11月25日（火）7：30～11：20

当保育所は0、1歳児のみの保育を行っていますので、

利用者本人の聞き取り調査は実施せず、保育観察のみ行いました。

遊びについて

保育室は大きなワンルームの真ん中を低いサークルで区切り、0歳児室と1歳児室に分けられています。どちらの部屋にも子どもたちの手の届く低い棚があり、ぬいぐるみやマグカップ、ミニカー、ブロックなどいろいろなおもちゃが置いてあります。絵本ラックも子どもたちが出し入れできる高さです。朝や食事前、午睡前など、子どもたちは一人ひとり思い思いにそれらのおもちゃを持ってきて遊んでいます。保育士は見守ったり、一緒に遊んだりします。ブロックも人気で、0歳児はブロックのはめはずしに集中し、1歳児は保育士を中心にして高く積み上げていました。

1歳児クラスは小さい集会もします。みんながまとまって保育士を囲んで座り、歌いながら手遊びをしたり、お話を聞いたり、絵本を読んでもらいながら会話のやりとりをしています。「3匹のこぶた」が大人気で、保育士が絵本をめくって「チーブタちゃんは何のお家？」と聞くと、子どもたちが声を合わせて「わらー!!」と答えるなど、盛り上がります。これを発展させて、劇遊びを楽しみ、お楽しみ会で発表するそうです。

0歳児クラスは保育士と1対1の遊び、わらべ歌でのスキンシップなどを喜びますが、もう全員が1歳の誕生日を過ぎ、おやつの前などに、みんながいすに座って絵本を読んでもらう楽しみも経験するようになりました。時には0、1歳児クラス合同で、一緒にパネルシアターなどを楽しむこともあります。

保育園の周辺は大きなビルやマンションが立ち並んでいますが、それを抜けると大きな川があり、土手があり、公園があり、どちらのクラスも雨が降らなければ毎日散歩に行きます。「おさんぽマップ」を作っていて、散歩コースは4つあります。保育士と手をつないで歩く子ども、大型バギーに乗る子ども、といろいろです。川沿いの公園で、子どもたちは保育士と一緒に落ち葉の上を歩いたり、走ったり、両手で落ち葉を集めて上に投げてまき散らしたり、どんぐりを拾ったり、秋の日を浴びて自然と触れ合い、飽きずに遊んでいました。

食事について

どちらのクラスも、テーブルを囲んでいすに腰かけて、食事の時間になります。テーブルの下には、こぼしてもいいように、かわいいクマの模様のついた黄色いシートを敷いていて、食卓を明るい感じにしています。

園では離乳食の後期食から、「手づかみ食べ」をしやすい調理形態にして、家庭にも手づかみ食べを勧めています。今回の調査時、0歳児クラスは手づかみ食べからスプーン、フォークに移行する途中の時期でした。手づかみは大好き、でもスプーンとフォークはもっと好き、という感じで、熱心にスプーン、フォークに取り組んでいました。わざわざ手づかみでうどんをフォークに乗せて口に運ぶ子どももいました。保育士はお皿に散らばった食べ物を集めてあげたりします。お茶のコップは適当な重さのある陶器で、子どもたちはみんな上手に飲んでいました。

1歳児は一人ひとりにおしぼりが配られ、全員が上手にスプーン、フォークで食べます。保育士は「おつゆゴクゴク飲んでごらん」「お手で拭いて」などと声をかけます。食べ終わったお皿を「ピカピカ!」とう

れしそうに保育士に見せる子ども、「ピカピカやって」と食べ物を集めてもらう子ども、そしておかわりする子どももいます。残食はほとんどありませんでしたが、一人、「うどんもういや」「りんごいらない」と、ぐずる子どもがいました。保育士は数回勧めましたが、無理強いせず、食事を終わりにしました。

食後は歯磨きです。0歳児クラスでは、歯が出始め、食後すぐに眠らないでいられるようになったころに、家庭から歯ブラシを持ってきてもらい、保育士が歯磨きをしてあげます。1歳児クラスでは、自分でゴシゴシする子どももいますが、最後に保育士が仕上げをしてあげていました。歯ブラシは毎日園で殺菌消毒をしています。

排泄、着替えなどについて

排泄チェック表をつけ、散歩前、食事前、午睡前にオムツ換え、あるいはトイレ誘導をしています。随時その子どもに合わせて対応しています。園の方針で、園では布オムツを使用しています。トイレトレーニングに関しては、子どもが「トイレは楽しい」と思う気持ちを第一に大切に、ゆっくり取り組んでいます。1歳児クラスでは、懇談会の際、保護者にトレーニングの冊子を渡して説明し、あせらずにゆっくり進めていくように話し合っています。

トイレは、1歳児クラスの奥にあり、トイレタイムには保育士が一人ずつ付いています。子どもたちは自分からトイレに行って座ってみたりします。その後、オムツを取り替えてもらっていました。

1歳児クラスの子供たちは、お散歩に行くときにはマットに腰かけて、自分で靴下と靴を履こうとします。保育士が手を貸します。お昼寝の前は着替えですが、やはり自分でしようという子どもが多く、ズボンでは自分で履ける子どもも多いです。ボタンはめに取り組む子どももいました。0歳児クラスの子供は着替えさせてもらいますが、散歩から帰ったときに自分から帽子を脱ごうとする子どももいました。

職員について

保育士は、子どもの登降園時には保護者と1対1で対応することを大切にしています。特に朝は必ず連絡帳を見ながら、子どもの様子を確認し合っています。

子どもたちに対しては、「温かく見守る」「優しい語りかけ」といった配慮を最も大切にされていて、一日の流れはゆったりとしています。おもちゃの取り合いなどがあると、すぐに保育士が間に入り、「これが欲しかったんだね」と気持ちをくみ取って代弁してあげ、「貸してって言おうね」などと優しく語りかけています。泣いた子どもは抱き上げ、スキンシップを大切にしています。

入園後しばらくは、子どもたちは環境の変化などで気持ちが落ち着かなかったためか、かみつきや引っかきなどもありましたが、その後ほとんどそのようなことはなくなりました。保育士と信頼関係で結ばれ、安心して園の生活に溶け込んでいることがうかがえます。

まとめ

子どもたちは職員全員に見守られ、安心して落ち着いて、ゆったりとした時を過ごしています。子どもたちは心が安定しているためか笑顔が多く、食欲も旺盛で、イライラを起こしたり泣き喚いたりする状況は見られませんでした。子どもたちは、一人ひとりがしっかりと職員全員に見守られ、受け止められ、満足して保育園の生活を楽しんでいます。

第三者評価を受審して

第三者評価を受審するにあたり、いろいろな情報をインターネットで調べたり、受審が終わった園から直接うかがったりしました。正直なところ「私たちの園の今の状況で受けることができるのだろうか」と不安な感想を持ちましたが「では、いつならば受けられるのか」と自問し、職員間で相談をしながら今回の受審を決めました。

0、1歳児(20名定員)だけの、マンションのワンフロアというけっして恵まれた環境にあるとは言えない保育園ですが、園目標に掲げているように保育園を「昼間のおうち」と位置づけ、子ども達が安心して「自分を出せる心地よさ」を目指して日々保育をしています。自分の意思を言葉でうまく伝えることのできない乳児だけの園ということで、細やかな気配りを実践していると自負していますが、それが書類としてマニュアルになっているかという疑問符がつかしました。

まずは最初の取り組みとして、私たちの園の独自のマニュアルづくりから始めました。特異な園の立地もありそれは大変な作業でした。そして、自己評価の記入へ。勤務形態が異なるため、職員会議の場だけでなく個々への説明の時間を設けたり、日中の時間帯に2グループに分けて話し合いの時間を作るなど、いろいろと工夫をしながら進めていきました。

マニュアルが整い、自己評価がまとまると、職員みんなで乗り越えたという大きな達成感を持ちました。また家族アンケートの配布にあたっては、保護者の方々への負担感を少なくする意味と周知するために文書での説明を2度行い、配布にあたっては手渡しで個々に声掛けをしました。その結果が回収率75パーセントという数字に表れたと思います。

そして訪問実地調査へ。外部の方が入って子ども達が動揺するのではないかという事前の心配をよそに、2日間の調査はとてもスムーズに進みました。保育に関してはいつもの自然な姿をみていただけだと思いますし、聞き取りについても私たちの園で普段から行っていることをご説明しました。そこまでの日程がすむと“ほっ”と一息、あとは評価結果を待つだけとなりました。

第三者評価を受けた多くの園が、「自分たちの保育の振り返りになった」と感想を寄せられています。が、実際、私たちもその通りの感想を持ちました。いろいろな面で自分たちが日々行っていることが間違いではなかったことに自信をもち、足りない面もわかりました。なにより私たちが評価した結果より、評価委員の方々が評価してくださった結果が24ポイントも上回っていたことが、うれしい誤算でしたし、家族アンケートで保護者の方々が、園への満足度に100パーセントをつけてくださったことが職員にとって、とても励みになりました。これからも、子ども達の「昼間のおうち」となれるよう努力していきたいと思っています。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
